

# 低温に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和3年9月2日に仙台管区气象台から発表された「東北地方週間天気予報」では、期間の中ごろにかけては、最高気温と最低気温はともに平年並か平年より低く、太平洋側を中心にかなり低い所もある見込みです。

今後の気象情報や注意報等に留意し、農作物の管理に十分注意しましょう。

## 東北地方週間天気予報

令和3年9月2日10時35分 仙台管区气象台発表

予報期間 9月3日から9月9日まで

向こう1週間は、前線や湿った空気の影響で曇る日が多く、期間のはじめと終わりは雨の降る所があるでしょう。東北北部は期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる日もある見込みです。

最高気温と最低気温はともに、期間の中頃にかけては平年並か平年より低く、太平洋側を中心にかなり低い所もあるでしょう。期間の終わりは平年並か平年より高い見込みです。

### 【共通事項】

- (1) 低温時は曇雨天となりやすく、農作物に病害の発生が懸念されることから、今後の天候の推移に十分に注意するとともに、ほ場をよく観察し、適期防除に努めましょう。
- (2) 農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、散布にあたっては飛散防止対策を講じてください。

## 1 水 稲

- (1) 出穂後、少なくとも30日間は落水せず間断かん水とし、根の活力を維持することで登熟の向上を図りましょう。
- (2) 刈り取りの適期は、籾の黄化率が90%程度、籾水分25%以下になったころからです。ほ場をよく観察し、適期刈り取りに努めましょう。

## 2 野 菜

- (1) 低温時は、きゅうりやさやインゲンでは肥大遅延が懸念されることから、不良果を早めに摘果するなど草勢に応じた着果管理を行うとともに、施設栽培では温度の確保に努めましょう。  
また、トマト等では着色不良となりやすいことから、施設内の温度確保に努めましょう。
- (2) 曇りや雨が多くなると、根が地表近くに張りやすくなるため、排水対策等を徹底し、湿害被害の防止に努めましょう。また、病害虫（特に病害）の発生が多くなるおそれがあることから、防除を徹底して被害防止を図りましょう。

### 3 果 樹

#### (1) 樹冠内の日照条件改善

ももやりんごでは枝吊り、支柱立て、夏季せん定により、なしでは新梢の誘引などにより樹冠内部の日当たりを確保しましょう。

#### (2) 適正な着果管理

樹勢や果実肥大の状況に応じた着果管理を行いましょう。りんごの中晩生品種では修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。

#### (3) 果実の着色促進

ももでは収穫7～10日前を目安に反射シート等を設置して、着色促進を図りましょう。りんごでは果面の30%程度が着色した頃から摘葉を実施しましょう。

#### (4) 適期収穫

果肉の成熟状況を十分確認しながら、品種ごとの収穫基準に従い計画的な収穫を行いましょう。また、なしでは蜜入り症の発生に注意し、適期収穫に努めましょう。

#### (5) 病害虫防除

曇りや雨が多くなると、病害虫（特に病害）の発生が多くなるおそれがあるので、発生予察情報等を活用し適切に防除を実施するとともに、定期防除の散布間隔が開かないよう注意しましょう。

また、感染源となる病斑や発病葉、発病果は速やかに適切に処分しましょう。

なお、モモせん孔細菌病の秋期防除は、越冬菌密度の低減を図るため、9月上旬以降2週間間隔で3回実施しましょう。

### 4 花 き

#### (1) ほ場の管理

曇りや雨が多くなると、日照が不足するなど茎葉の生育が軟弱徒長となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、積極的な施肥は避けましょう。

また、曇雨天時は遮光資材を取り除き、光の確保に努めましょう。

さらに、不要な枝葉を取り除き風通しをよくするとともに、農薬の予防散布により病害虫の発生抑制に努めましょう。

露地花きでは、過湿等によって下葉の黄化や枯れ上がりが発生しやすいため、排水対策を行いましょう。

#### (2) 主な品目の技術対策

##### ア トルコギキョウ

ブラスチングが発生しやすくなるため、余分な蕾を早めに取り除きましょう。また、施設内の風通しを良くし、灰色かび病の抑制に努めましょう。

##### イ ストック

低温に経過すると、花芽の形成が早まり、開花時期が早まったり十分な切り花長が確保できない恐れがあることから、施設内の温度確保に努めましょう。

##### ウ キク

白さび病等の発生が懸念されるため、排水対策や農薬の予防散布を行いましょう。

##### エ ユリ

露地では葉枯病が発生しやすいため、排水対策や農薬の予防散布を行いましょう。

##### オ リンドウ

葉枯病や褐斑病が発生しやすいため、排水対策や農薬の予防散布を行いましょう。

また、気温が低く経過すると花腐菌核病の発生が早まるため、適切な防除に努めましょう。

## 5 飼料作物

- (1) 生育停滞のおそれがあるため、生育状況に応じた適切な肥培管理や収穫調製に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>